

ホームカミングデイ

講演会のお知らせ

会長 澤本 和子

今年も次の通り、日女祭の第一日目に、ホームカミングデイを開催いたします。万葉お繕り合わせの上御参加ください。学生と共に御来学をお待ちしています。

日 時 平成二十五年十月十九日（土）午後一時三十分～三時三十分

場 所 日本女子大学人間社会学部（西生田）A棟二階 第一会議室

テーマ 女性のリーダーを増やすには？
「女性リーダー像の再定義と新潮流」

一 講師の報告
二 質疑応答
三 歓談

講 師 岩木 秀夫先生（教育学科教授）
山下 純先生（教育学科専任講師）

お菓子とお茶の用意をしております。

申し込み 準備の都合上、なるべく同封のハガキで
十月十一日（金）までにお申し込みください。
(申し込みなしでの当日参加も歓迎です。)



— 第63号 —
〒214-8555
川崎市多摩区西生田1-1-1
日本女子大学教育学科の会
電話 044(952)6870(代)
FAX 044(952)6889
ホームページ
<http://jwu-gakuen.net/>
メールアドレス
info@jwu-gakuen.net

第二十三回 日女祭
ひめのさい
十月十九日（土）二十日（日）
午前十時～午後五時
＊入場は両日共に午後三時三十分まで

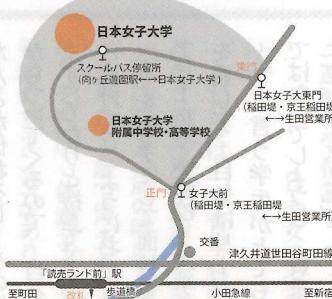
交通のご案内

◆小田急線読売ランド前駅下車徒歩15分

新宿から急行25分(向ヶ丘遊園乗り換え)
" 準急30分

◆向ヶ丘遊園駅 北口3番停留所より

スクールバス(所要時間約15分・無料)



自己学習力を育てる「学習法講座」を学校カリキュラムに

教育学科准教授 濑尾 美紀子

※卒業生の方は西生田キャンパス入構・スクールバス乗車に際して、身分確認用として、「葦」送付時の封筒をご持参ください。

現代の教育心理学では、「記憶」や「理解」「問題解決」などの学習メカニズムが調べられ、知識を効率的に身につける記憶方法、学習内容を確実に理解する方法、問題解決スキルを育成する方法などが、実証研究を通じて明らかになってきています。私は、数年前からこうした研究成果を子どもたちに紹介し、ふだんの学習に取り入れてもらいうる「学習法講座」の取り組みを行っています。これまで、研究協力校の時間的制約から「問題解決スキル」のみの講座でしたが、今年度は、新たに「記憶の工夫」と「問題解決スキル」の二つを取り上げて授業とも連動させた体系的なプログラムの中に組み込んでいたいとして実施しているところです。

先に述べた自己学習力を獲得する重要性や、中高生の現状を考えると、このような「学習法講座」を学校教育の中でもっと展開していく必要があると考えます。

提言

平成二十五年度
教育学科の会 大会報告

第五十二回 教育学科の会大会が
五月二十五日（土）西生田キャンパス
において行われました。

第一部・総会

総会は、会長挨拶から始められ、議長の選出、平成二十四年度事業報告、決算報告が行われました。平成二十四年度の事業報告として主な事業は、第五十一回大会が行われ、総会の後四名の講師による「学園の集い」が開催され卒業生を囲み学生の熱心な質疑が出来た事、十月二十日（土）にホームカミングデイが開催され、成瀬

赤子先生により「いま、哲学を一生きることと、希望することを学ぶために」の講演があり、興味深いお話を伺えた事、十二月一日（土）に懇話会が百年館（目白）において開催され、内山眞理子氏（教育学科二十二回生）により「タゴールと森の学校」の講演があり、参加者も交え、興味深い論議がなされた事、三月には紀要「人間研究」第四十九号が発行され、会報「葦第六十一号が九月に、第六十二号が三月に発行された事などが報告されました。

その後 新役員の選出 平成二十五年度事業計画、それに伴う予算案と議事が進行致しました。

また、教育学科の会奨励賞は、加藤美由紀氏、山澤和子氏、秋保恵子氏、北詰裕子氏の四名が受賞されました。



37回生 濱本 恵美子さん

■ 第二部・学縁のつどい

平成二十五年五月二十五日の教育学科
学縁のつどいでは、富士通株式会社S-I技術
本部・システム技術統括部で活躍なさう
ている濱本恵美子さんに「選択すること考
えること」をテーマにお話しして頂きました。
これから就職活動をしようと思っている人も
そうでない人も、社会の一員として仕事を
する時、あるいは今までとは違った環境で周
りの人と関わっていく時に必要になってくる
ことを、ご自身の過去から現在までを振り
返りながら教えていただいて、とても貴重な
経験をさせて頂くことが出来ました。

現代において企業側はどのような人材を必要としているのでしょうか。「実際には私がアドバイスをしても受け入れない部下もいて、そういう人は器の大きさをもう少し持つた方がいいです。」この言葉を聞いた時に私は少し意外に感じてしまいました。なぜかと いうと、上司や先輩、あるいは立場的に上の人から貰うアドバイスは受け入れて自分の考えに活かしていくものだ、社会人は当然そうであるだろう、と思っていたからです。また、「コミュニケーション力は必要ですね。」とおっしゃった時には、やはり「コミュ力は必要なのかと思わずうなづいてしまいました。



シップをアピール材料として使うにはどう説明したらいのか、そもそも、アピール材料として有効なのか、ちゃんと考えて話していないことが多いです。」

「なんとか伝わるし」その結果スキルは後からついてくるので、自分が語るべきことをまずしっかりと持って下さい。」また、その後に続けて「このようにおっしゃいました。「十人以上を相手にして面接をしたところ、自己アピールで『高校・大学の頃、○○の経験子供が好きだからと答えるません。子供が好きだから前なんです。それよりもり前なんです。それよりも経験できなかつたことの中でも感じたかなどを踏まえて話印象に残りやすいんです。」

2013年(平成25年)9月30日

教育学科の会だより

恩師の森田伸子先生は、「動の世界」にとらわれがちな私に対し、教育思想史の幅広い見地から光を与えてくださいました。また、教育学科の先生方にも多様な視点からご指導を頂戴いたしました。お陰様で、少しずつ歩みを進め、博士論文という形で大学院入学後の研究をまとめることができました。

研究内容は、教員時代に興味をもった「読書教育」が契機となり、大正新教育期の一教員・奥野庄太郎の「読むこと」の教育を考察いたしました。私については、「動の世界」で受けたインパクトの延長線上に大学院での研究があり、三十年目にして、ひとつのゴールに辿り着いた思いです。

この間、「静の世界」に見えた「研究」が実はとても「動」的であることを実感しておりました。これからは、今回の到達点を次の研究へのスタートと定め、日々幅広く躍動的に思考し、前進させることがお約束して、受賞のご挨拶とさせていただきます。

「開かれた研究の扉」

東京学芸大学 教育学部専任講師

北詰 裕子



このたびは教育学科の会奨励賞をいただきまして誠にありがとうございました。大変光栄に存じます。論文博士といふこともあり、教育学専攻の諸先生方には五月の構想発表会から翌年一月の公開審査まで、長きに渡り大変お世話になりました。この場をおかりしましてあたたかいご指導を賜りましたこと、心より感謝いたしますとともに深く御礼を申し上げます。

が、博論執筆期間のみならず、学部の入学

から大学院、そして現在に至るまで、今ある私をの形にしてくれたのは他ならぬ教育学科でした。多様な専門の先生方がそれぞれのディシプリンから教育をめぐる諸問題に鋭く切り込む授業の数々からは、実際に多くを学ばせていただきました。それは同時に、「教育とは何か」といった根源的な問題を様々な角度から問い合わせしつつ、その難しさと面白さとを経験することでもあります。そのような学問の経験を共有できる良き仲間に恵まれたことも幸いでした。

学部二年のときに、森田伸子先生の「教育思想史」の授業との出会いから、十七世紀におけるコメニウスの教育思想を探求する道が開かれ、博士論文へ、さらに今現在の研究へと繋がっています。

また研究のみならず、大学院卒業後は非常勤講師として、教育学科の授業を担当させていただき、元気で好奇心溢れる学生さんたちとともに、教えることと学ぶことの関係性のなかに身を置かせていただきました。教育を研究の対象として、自らもまた教育の当事者であることの意味を常に問いかねながら、これからも研究・教育に携わって参りたいと思います。

最後になりましたが、先の三月に退職されました森田伸子先生に、学部時代からこれまで、指導教員として温かくお導きいた御礼を申し上げたく存じます。本当にどうもありがとうございました。

日 時 平成二十五年十一月九日（土）午後一時～五時三十分

講師プロフィール

福島県相馬郡新地町にあった、明治創業の老舗旅館「朝日館」の元女将。東日本大震災で旅館が津波に流され、現在は家族三人で仮設住宅に住んでいる。仮設のおばあちゃんたちと「工コたわし」を編み販売したり、子どもたちのためのバーチャルマーケット「マイタウンマーケット」の企画に取り組んだりと、地域の人達と元気なコミュニケーション活動を行っています。

人気ブログ「朝日館の女将のてんてこ舞日記」を震災の二週間後に再開し、さらにフェイ

スブック、ツイッター、講演会などを通して震

災時、避難所や仮設住宅、新地町の様子を発信し伝え続けている。また昔話の語り部としても活躍し、著書に「新地の昔話」（新地語つてみつ会編・新日本文芸協会）がある。

国際シンポジウムのお知らせ

「アクション・リサーチによる授業改善と学校改革」

授業改善と学校改革

アクション・リサーチは、理論と実践を往

還しながら、教育実践のさまざまな課題を解決しようとする方法論です。そこでは、教育現場（学校）と研究機関（大学、研究セ

ンターなど）との緊密な連携が求められています。本シンポジウムは、カナダでも特にア

クション・リサーチが活発に展開されているカナダ・オンタリオ州、グランド・エリー

地区のジャクリーン・ディロンゲ元教育長と、我が国のアクション・リサーチをリードして

いる鹿毛雅治・慶應大学教授、生田孝至・新潟大学副学長をお招きして、カナダと日本

のアクション・リサーチの動向と展望につ

いて考えます。シンポジウムでの討論を通して、我が国の授業改善と学校改革についての手がかりを得ることが期待されます。

講 師 村上 美保子氏
日 時 平成二十五年十一月三十日（土）午後一時三十分～三時三十分

会 場 日本女子大学目白キャンパス百年館306・307教室

会 費 無料

申込み 同封のハガキまたは直接会場へ

そ の 他 託児あり（2歳～5歳）要予約

問合せ先 赤塚 国子（文化部24回生）
電 0466・34・9177

懇話会のお知らせ

「今、福島に生きて」
～朝日館女将が語る、震災・津波・そして紙芝居～

震災・津波・そして紙芝居

震災当時のこと、避難所仮設住宅での生

活、現在行われている様々な活動、今私達がなすべきことなど。

また震災当時の様子を描いた紙芝居も語ります。



◆新任の先生紹介◆

教育学科教授 今井 康雄先生



■簡単な経歴、職歴、専門科目などのプロフィールをお願いします。

専門科目は教育思想、教育哲学です。広島大学を卒業して広島大学大学院教育学研究科で学んだ後、2年間ドイツのゲッティンゲン大学でクラウス・モレンハウターの下で学びました。ドイツから日本へ戻ってきた後は、母校である広島大学で2年半、東京学芸大学で10年、東京都立大学で3年、東京大学で12年勤めました。そして今年4月に日本女子大学人間社会学部教授として着任しました。教育概論をはじめ6つの講義を担当しています。

教育学科教授 清水 瞳美先生



■最後に学生にメッセージをお願いします。

みなさん素直な学生が多く、とても良い素質を持っているので、いろんなことにチャレンジするべきだと思っています。それほど受験勉強で苦労していないくて伸びしろがある状態だと思うので、大学でいろいろな経験をして自分の中の可能性を発見して広げていってください。

【学生委員2年 増田 夏織】

■日本女子大学の学生の印象はいかがですか？

物事を真正面からまじめに取り組む学生が多いと感じています。特に、与えられた課題を表面的・効率的に終わらせようとする感じがなく、探索的・多角的に捉えていこうとする意気込みを感じます。ただし、課題など机上でこなせるものには、そのような深まりを感じますが、外に向かう活動については、なかなか広がらず、戸惑いや躊躇いのためか、既存の枠内に止まってしまうような感じも受けます。そこにもう一枚超えるべき壁があるように思います。

■最後に学生にメッセージをお願いします。

学生時代は、迷い悩むことが最も許される時期だと思います。その迷い悩む時

期に、大いに迷い悩むことが大事だと思います。目的に向かって効率よくこなすために試行錯誤することで、考え方や生き方に広がりと深みが出てくるように思います。迷うこと、悩むことを恐れずに、今までやつてこなかった新しい物事に挑戦してほしいと思います。

【学生委員2年 東條 葉】

■簡単な経歴、職歴、専門科目などのプロフィールを教えてください。

学生時代打ち込んだことは、あまりないですね(笑)よく中高生時代が楽しかったとおっしゃる方が多いですが、僕は受験勉強が嫌いだったので、楽しいとは思いませんでした。そのため、大学に入った時に自分の好きなように勉強ができる良い!と感じました。広島大学は教員育

成に強い大学だったので僕も中高の社会科の教員免許は取りましたが、教育実習で小学生を相手に授業をした時、教員は向いていない、僕に教えられる子供のほうが可哀想だと思ったので、そのまま大学に行つて研究をつづけました。(笑)

■教員生活の中で大切にされていることはなんですか？

出来るだけ自分で研究して納得したことを教えるようにしています。

■教員生活の中で大切にされていることはなんですか？

「知識は力である」と思います。つまり、知識が身につくことで、世の中は変わつて見えるようになります。今まで当たり

長野県内の公立中学校に勤務。教科は数学。7年間の教員経験の後に大学に学士入学し、政治学・経済学・法学など教育とは異なる分野を学び、東京大学大学院教育学研究科の修士課程・博士課程に入りました。2002年からは東京理科大学理工学部教養で、教職課程を担当して、本年度から日本女子大学に勤務しています。専門は教育社会学・学校臨床学・ニューカマー研究で、担当科目は、国際教育学・異文化間教育実践論です。

と、それにより、自分自身が生きている今、社会を客観的に見ることができます。大学時代は、知識を通して、個人と社会をつなげることが重要であると考えていて、そのようなベースをもつ講義や演習になるように考えています。

外国人の子どもたちの当事者団体の立ち上げの手助けし、その団体とのつきあいは10年以上も続いている、ライフワークになっています。

■簡単な経歴、職歴、専門科目などのプロフィールを教えてください。

1963年長野生まれ。大学を卒業後、



平成25年度 教育学科の会

(数字)は回生

◆会長 澤本 和子(研究室)

◆副会長 浦野 敬子(25)、大森 桃子(26)

◇研究室委員会 山下 純(研究室)

◇回生委員会 委員長 萩野 厚美(25)

◆監事 藤塚 和子(18)、三浦 栄子(18)

副委員長 藤田 良子(25)、近藤 尚子(34)

【各部会】

※: 部長

無印: 副部長

総務	会計	会員
※渡邊 明美(27)	※相沢 喜代美(26)	※松尾 里羽子(31)
	小菅 直美(26)	青木 紀子(31)
庶務	文化	会報編集
※杉山 京子(27)	※赤塚 国子(24)	※石井 美奈子(38)
橋本 晴子(22)	渡部 泉(24)	大熊 智恵美(34)

◇学生委員会

学部1年	今村 夏海、小池 真結、林 麗未、長谷川 真由
学部2年	大河原 千佳、斎藤 果織、東條 葉、富田 愛理、増田 夏織
学部3年	岡崎 明日香、北村 花菜恵、清水 麻希、菅井 祥子、関口 舞、石川 友季、高野 友里恵 中瀬 美沙、八束 真美子、斎藤 史恵、福田 紗祐美、高森 詩文、佐藤 みづき
学部4年	芦野 恵理、石井 麻菜、岩本 美咲、小野寺 夏子、君島 由紀、小泉 桃子、曾我 亜美 千葉 育美、寺島 実那子、森木 智子、山崎 愛美
大学院	戸川 真理子

日本女子大学教育学科の会
平成24年度決算書(平成24年5月1日～平成25年4月30日)
及び 平成25年度予算書

【収入の部】

項目	平成24年度			平成25年度 予算(案)
	予算	決算	差額	
入会金	100,000	126,000	-26,000	110,000
会費	2,200,000	2,581,000	-381,000	2,500,000
人間研究 助成金(*1)	180,000	252,000	-72,000	200,000
人間研究 助成金(*2)	20,000	0	20,000	20,000
受取利息	1,500	1,154	346	1,500
その他	0	0	0	0
収入の部合計	2,501,500	2,960,154	-458,654	2,831,500

(*1)大学刊行助成金より

(*2)教育学科研究費より

【支出の部】

項目	平成24年度			平成25年度 予算(案)
	予算	決算	差額	
奨励金	0	0	0	120,000
印刷費				
人間研究	350,000	504,000	-154,000	380,000
会報	360,000	365,389	-5,389	360,000
名簿	0	21,000	-21,000	0
名簿データ管理料	150,000	125,763	24,237	150,000
行事運営費				
大会	140,000	125,343	14,657	140,000
懇話会	170,000	69,729	100,271	170,000
ホームページマネージメント	50,000	41,092	8,908	80,000
理事会等運営費(会議費)	70,000	141,474	-71,474	70,000
活動費				
研究室委員会	220,000	220,000	0	220,000
学生委員会	50,000	40,494	9,506	50,000
回生委員会	150,000	111,541	38,459	180,000
総務部	50,000	49,670	330	50,000
会計部	20,000	27,991	-7,991	25,000
会員部	10,000	6,430	3,570	10,000
庶務部	30,000	34,261	-4,261	35,000
文化部	20,000	15,240	4,760	20,000
会報編集部	100,000	71,920	28,080	100,000
研究誌編集部	40,000	40,000	0	40,000
研究室経費	40,000	40,000	0	40,000
送料・通信費	800,000	824,483	-24,483	800,000
事務・消耗品費	25,000	35,642	-10,642	25,000
慶弔費	10,000	0	10,000	10,000
雑費	10,000	16,470	-6,470	10,000
予備費	10,000	0	10,000	0
ホームページ作成 委託費	50,000	7,740	42,260	500,000
桃柿育英会(震災義援金)	20,000	20,000	0	20,000
支出の部合計	2,945,000	2,955,672	-10,672	3,605,000

↓

【平成24年度 収支差額】	4,482
【前年度からの繰越金】	8,306,972
【次年度への繰越金】	8,311,454

上記のとおり報告いたします。

平成25年5月25日

教育学科の会 会長

会計

澤本 和子

相沢 喜代美

上記について慎重に監査した結果、いずれも適正かつ妥当なものと認めます。

監事 三浦 栄子

監事 藤塚 和子

先輩にインタビュー



今回は平成二十四年二月に教育学科を卒業されました、羽賀陽さんにメールにてインタビューさせて頂きました。在学中は、吉崎ゼミに所属し、卒論は「小学校におけるソーシャルスキル教育の実践と課題」をテーマに書かれたそうです。現在は、川崎内の小学校に1年生の担任として勤務されています。



62回生 羽賀 阳さん

ルバイト、学校教育ボランティア、理科支援員、公益財団法人Y.M.C.Aのボランティア活動をするようになりました。

◆ 大学時代にしておくと良いと思うことはありますか。

「まずは、なんでもやってみる!」

私は、人材派遣会社の内勤アルバイトをしていましたので、様々な年齢層のお客さんに

お仕事を紹介することや、業務委託をしてくる企業さんとの電話対応など、コミュニケーションの取り方を学べた気がします。

一般的な会社で働くことは責任も多く苦しいな、

と思うこともありました。自分ができる仕事が少しずつ増えてくることがとても嬉しく自信に繋がりました。

また、理科支援や教育ボランティア、八ヶ岳自然教室引率の指導員など実際に教育現場の中に入つて子どもも関わる経験もしました。自分が思っていたよりも、子どもたちの反応がとても新鮮で、細かいところまで配慮がある先生たちの丁寧な支援にとても驚きました。教育ボランティアで小学校に行くことで、子どもとの関わり方、授業の進め方などとても勉強になりました。大学の授業が週一で、小学校へのボランティアには週三、四日通っていました。(笑)

◆ 先生になつてよかつたと思うことはありますでしょうか。

一番は、体調管理です。(笑) 教室では、毎日三十人近くの子ども達が待っています。

私が一人が休むと、何人の子どもたち、先生方に迷惑がかかつてしまうので本当に油断はできないな、といつも痛感しています。

実際、体調を崩してしまい授業ができないことがあります。次の日学校に行くと、たくさんのが手紙と、黒板へのメッセージ。涙がでるほど嬉しかったです。子どもからの愛を感じました。

体調管理も大事な仕事の一つです。担任の代わりはないので、笑顔で子どもたちの登校を迎えるように心がけたいと思います。

◆ 今後の目標を教えてください。

具体的にこんな人が目標!とは今ハッキリしていません。しかし、六年間の小学校生

全員で、困っている子どもを全力で支えていきましょう。』という一言でした。この言葉を聞いたとき、私も川崎市の教員の一人として、子どもたちを支えていきたい!と強く実感したことを覚えています。

◆ 先生になつてよかつたと思うことは何ですか。

「毎日子どもたちと関わること!」

子どもの成長は本当に嬉しいです。学校生活を送つて行く中で、貴重な子どもの成長を実感できることは幸せです。子どもたちなりに、苦しい時は考え、試行錯誤し毎日を過ごしています。まさに「生きる力」を感じることができます。

◆ 最後に一言お願いします。

どの仕事でも同じだと思いますが、どんなに小さいことにでも「感謝をすること」は大切です。

働かせてもらえる学校があること、毎日笑顔で登校してくれる子どもたちがいること、子どもを担任に任せてくれる保護者がいること、困った時に助けてくれる同期や職場の先生がいること。

当たり前だと思つてしまふと、なんとなくもつたないんですよね。多くの人の支えがある自分が生かされていることをたまに感じてもらえたたら思います。

子どもの成長を一番身近で感じることができるのは、この仕事ならではの幸せだと思います。これから社会を担う子どもたちを私たちと一緒に育てていきましょう!そして、子どもと一緒に成長しましょう。

少しでも興味があるなら、ボランティアにどんどん参加してみるとだと思います。いつもやるか。「今までしょ!」

いつか教育現場で一緒に働くことを楽しみにしています。(8ページに続く)

◆ 小学校の先生になろうと決めたきっかけは何ですか。

小学校の時の担任の先生の影響が大きいです。しかし、地元ではなく川崎市教員を志望したきっかけは、ボランティア先の小学校の校長先生の一言でした。

学校外では、他大学の野球サークルに入部し、女子大以外の友達ともスポーツを楽しむことができました。三年生になってからは、大学の講義にも余裕がでてきたので、アーチャー一人の担任は、一人ではない。教職員



返信ハガキより

最近「幼児教育の社会学」のなかでも、世界のE.S.D (Education for Sustainable Development)への幼児の参画について、スウェーデンストックホルム大学との連携研究と国内保育所・幼稚園の現状についての調査を考えております。会員の中に、このような研究への参画を希望される方がおりましたら、下記にご連絡ください。昨年は OMEP 世界大会のアセンブリーに出席・提案、今年は7月に上海で日本 OMEP のワークショップを担当の予定です。葦が、研究・セミナー交流の場になるといいですね。

〒338-0006 さいたま市中央区八王子5-11-11-8
萩原元昭 (群馬大学名誉教授)

（感想）一年次に羽賀さんの勤務先の小学校でインターングラフした際、「羽賀先生」がとても素敵なお仕事されている様子を目にし、是非お話を伺いたくインタビューやせて頂きました。大学時代から将来のことを考え様々な活動に参加されていましたこと、感謝の気持ちを忘れないことなど、今すぐ心掛けたい貴重なお話ばかりでした。素晴らしい方々との出会いも、羽賀さんのお人柄ならではと思います。この記事を読んで、教師になりたい気持ちが、さらに強くなつた方が多いのではないかでしょうか。羽賀さんのように私も、もっと貪欲に、もっと謙虚に活動していきたいと思いました。お忙しい中インタビューにお答えください、ありがとうございました。心より感謝申し上げます。

【学生委員2年 東條 楓】



お知らせ 「教育学科の会 HP 学縁」 ホームページが装いも新たにスタートしました！

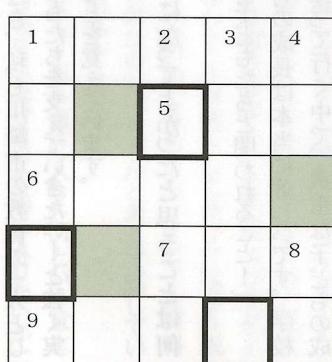
行事のお知らせや報告だけでなく、「会員登録」のページを通じ住所変更などもできるようになりました。さらに会員専用ページでは、「葦」のバックナンバーや「人間研究」の目次も読めるようになりました。クラス会のお知らせや投稿などを載せる「会員の広場」も設けました。会員専用ページへのアクセスの方法は回生委員にお尋ねになるか、メールでお問い合わせください。HPを活用して、学生、先生、卒業生がますます繋がっていきますように。【副会長 大森桃子(26回生)
ホームページ：<http://jwu-gakuen.net/> メール：info@jwu-gakuen.net

クロスワードパズル

太線枠の文字を組み合わせてできる3文字の外来語は？

ヒント！

外来語の発音は同じでも、英語ではRとLの発音を
ちゃんとしないと全く違った意味に・・・



締め切り
10/11（金）必着



解答を同封のハガキに書いて送ってください
正解者10名に図書カードを贈呈します。

（正解者多数の場合は抽選）

<ヨコのカギ>

1. 教育機関が発行する証明書。
5. 豚の背脂。
6. ハンバーグ・目玉焼き・グレービーソースを白飯にのせたハワイ料理といえば。
7. 現場ではなく、社内で取材や編集を統括する人。
9. ほっと一息、緊張が○○○○○。

<タテのカギ>

1. 今年7月に財政破綻したミシガン州の大都市といえば。
2. 昔から、どちらかといえば男子の趣味のひとつ。
3. LCCとは○○○○○キャリアの略です。
4. 「ぞうさん」「やぎさんゆうびん」「ふしぎなポケット」といえば○○みちお。
8. ブロッコリーのつぶつぶは蕾。○○も栄養があるので食べましょう。

◆前回の正解はくうどん（餃子）でした。

たくさんのご応募ありがとうございました。

[当選者] （敬称略・数字は回生）

加藤啓子（24）・小島良子（24）・小野雅子（25）・川島明子（31）

小高みどり（32）・土井稔子（39）・市川里智子（44）

小澤祐子（55）・海野沙希（62）・太田公（元教員）

「葦」を編集してから皆様のお手元に届くまで1ヶ月以上ありますので、日女祭などの最新情報は大学のホームページでご確認ください。

■「葦」の編集委員に新しいメンバーが加わりました。編集会議に新鮮な風を吹き込んで、マンネリ化打破！星野さん、よろしくお願ひしますね。

高橋 藤枝（23回生）

■ちょうど入稿前、クインシー・ジョーンズの公演を行つてきました。大学時代に武道館での公演に行きましたが、なんとその時以来32年ぶりの来日ということがわかり、より感慨深いものとなりました。大熊智恵美（34回生）

■今号よりお手伝いさせていただくことになり、また母校との縁ができうれしく存じます。次号はお役にたてるよう頑張ります。よろしくお願いします。

星野 ひろみ（37回生）

■教育学科の会ホームページが充実しました。「葦」とともに、会と会員、また会員同士を結ぶ二本の柱になることを願っています。

石井 美奈子（38回生）

* 編集後記 *

